

聖書日課『からし種』 2026.8.9－8.16

8月9日 (日) サムエル記下 16章	「ダビデは…言った。『(シムイは)主の御命令で(わたしを)呪っているのだ』(11節)。かつてダビデがウリヤの妻を強奪した際、主は「剣はとこしえにあなたの家から去らない」と語られた(12:10)。シムイの侮蔑を浴びながらダビデは主の厳しい裁きの言葉を思い起こしたことだろう。主の前に心低くされるダビデ。しかし、そこが主に従う信仰の再起点となる。
10日 (月) サムエル記下 17章	「ダビデがマハナジムに着くと…ロゲリム出身のギレアド人バルジライとが…食糧としてダビデと彼の率いる兵に差し出した」(27-28節)。ヨルダン川東側のギレアドの人々は、西側のイスラエルから正当な評価を受けていなかったのに、都を追われたダビデに親切を惜しまない。「隔ての川」を超えて痛んでいる隣人に心を寄せることのできる「わたし」でありたい。
11日 (火) サムエル記下 18章	「王はヨアブ、アビシャイ、イタイに命じた。『若者アブサロムを手荒には扱わないでくれ』(5節)。ダビデは、戦場では優れた武将だったが、息子たちのことになると甘々の愚かな父親でしかない。そもそも息子たちの無軌道ぶりはダビデ自身の罪(バト・シェバ事件)に根がある。我が子に「神を畏れること」をどう継承できるのか。これは私たち自身の課題である。
12日 (水) サムエル記下 19章	「ダビデは身を震わせ、城門の上の部屋に上って泣いた。『わたしの息子アブサロムよ…わたしがお前に代わって死ねばよかった』(1節)。ダビデの多くの息子たちはそれぞれ母が違う。ダビデは数多くの詩編に彼自身の信仰の言葉を遺しているが、自分の息子たちには何を継承できたのだろうか。ダビデの姿に、私たち自身の課題が問われているように思う。

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2026.8.9－8.16

13日 (木) サムエル記下 20章	「知恵のある女が町から呼ばわった。『聞いてください。聞いてください。ここに近寄ってください。申し上げたいことがあります』(16節)。理不尽な攻撃から町を救うために、一人の女性が勇気を振り絞って声を上げた。この無名の女性の勇気にこそ「ほんとうの知恵」の姿がある。「ほんとうの知恵」は単なる知識の集積ではない。人々の命を救う生きた知恵である。
14日 (金) サムエル記下 21章	「アヤの娘リツパは粗布を取って岩の上に広げた」(10節)。愛する者の命を理不尽に奪われた憎悪が報復を生み、憎しみの連鎖につながっていく。リツパは、憎しみの連鎖の犠牲になった息子たちの遺体を、身を挺して空の鳥や野の獣から守り続けた。深い悲嘆を胸に懸命に行動する彼女の姿は、8・15を前にした私たちに何を問いかけているだろうか。
15日 (土) サムエル記下 22章	「主よ、あなたはわたしのともし火／主はわたしの闇を照らしてください」(29節)。死の波、奈落の底、陰府の縄、死の網から何度も救い出されてきたダビデは、主の慈しみを賛美せずにはいられなかった。しかし私たちに最も必要な救いは、わたしの罪の闇を照らすともし火である。十字架の主よ、今日わたしの闇を照らし、正しい道に導いてください。
16日 (日) サムエル記下 23章	「神と共にあってわたしの家は確かに立つ。神は永遠の契約をわたしに賜る／すべてに整い、守られるべき契約を。わたしの救い、わたしの喜びを／すべて神は芽生えさせてくださる」(5節)。これはダビデの最後の言葉。これが受け継がれていけばソロモン、そしてレハブアムに王権が引き継がれても揺るぎなかったはずだ。信仰を引き継ぐのは難しい。